

北海道ブルーリスト改訂版【両生爬虫類】（2019年）について

1 改訂検討の体制

両生爬虫類については、以下の構成員による「北海道外来種対策検討有識者会議両生爬虫類専門部会」を設置して詳細な検討作業を行いました。

○北海道外来種対策検討有識者会議両生爬虫類専門部会構成員一覧表

氏名	所属等	備考
吉田 剛司	特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 研究員	構成員
竹中 踐	東海大学生物学部 特任教授	構成員

2 改訂検討の方法

前回リスト同様に次の4つの視点により対象生物の選定を行い、別表1「カテゴリー区分（対象生物の選定の考え方）」により、個別に評価を行い、「カテゴリー区分」のA、B、C、D、E、h及びKの種をリストに掲載しました。

<4つの視点>

- ①本道に導入されているか
- ②本道に定着できるか（越冬の可能性など）
- ③本道に定着しているか
- ④本道への影響等が報告されている、あるいは懸念されるか。

また、本道の生態系等への影響が最も懸念される「カテゴリーA」に区分された外来種については、対策の必要な種を明確化し、関係機関や団体が連携した対策が推進されるよう影響の程度等により対策の優先度を検討し、A1、A2、A3の3段階に細区分しました。

3 改訂結果の概要

(1) 爬虫類

爬虫類について、改訂版ブルーリストに掲載されたのは計8種で、改訂前から新たに2種を追加し、4種を削除しました。

・新規掲載種：2種

種名	変更理由
ニホントカゲ	導入は確認されていないが、道の生物多様性保全条例による指定外来種として指定し、注意すべき種としている。
ニホンヤモリ	道内で資材等への付着による導入が確認された。

・国内外来種→国外外来種に変更：1種

種名	変更理由
クサガメ	中国由来の国外外来種であることが報告されている。

(2) 両生類

両生類について、改訂版ブルーリストに掲載されたのは計13種で、改訂前から新たに3種を追加し、9種を削除しました。

・カテゴリー区分の変更：2種

種名	変更理由	変更の内容
ニホンヒキガエル (アズマヒキガエル)	石狩川流域で大繁殖が見られ、分布が広がっている状況。	A3→A1
シュレーゲルアオガエル	道内で鳴き声が確認され、導入が明らかとなった。	h→E

・新規掲載種：3種

種名	掲載理由
アジアヒキガエル	国の生態系被害防止外来種リストに掲載されていないが、流通があり注意する必要がある。
チョウセンズグガエル	ニホントカゲと同様、導入は確認されていないが、道の生物多様性保全条例による指定外来種として指定し、注意すべき種としている。
アフリカツメガエル	道内で流通が多く見られ、耐寒性のある個体も報告されているので注意する必要がある。

■爬虫類

○国外外来種（4種）

目名	科名	種名（亜種名：*）	カテゴリ区分		
			今回	2010	2004
カメ	イシガメ	クサガメ	C	C	C
	ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ	A2	A2	A
	カミツキガメ	カミツキガメ	E	E	C
	スッポン	トゲスッポン	h	h	-

○国内外来種（4種）

目名	科名	種名 (亜種名：*)	カテゴリ区分		
			今回	2010	2004
カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	C	C	C
	スッポン	チュウゴクスッポン	E	E	-
有鱗	トカゲ	ニホントカゲ	h	-	-
	ヤモリ	ニホンヤモリ	E	-	-

○今回の改訂でブルーリストから削除した種

目名	科名	種名 (亜種名：*)	削除した理由
有鱗	カナヘビ	アムールカナヘビ	対馬にも生息するので流通はあり、道内で注意すべきはロシア産が該当するが、北海道内に侵入する可能性は低いものと考えられるため
		タカチホヘビ	流通は少なく、資材との混入の可能性も低いものと考えられるため
	ヒバカリ ヤマカガシ		

■両生類

○国外外来種（5種）

目名	科名	種名（亜種名：*）	カテゴリー区分		
			今回	2010	2004
無尾	ヒキガエル	アジアヒキガエル	h	-	-
		ヨーロッパミドリヒキガエル	h	h	-
	アカガエル	ウシガエル	A2	A2	A
	スズガエル	チョウセンスズガエル	h	-	-
	ピパ	アフリカツメガエル	h	-	-

○国内外来種（8種）

目名	科名	種名 (亜種名：*)	カテゴリー区分			
			今回	2010	2004	
有尾	イモリ	アカハライモリ	E	E	h	
無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル（アズマヒキガエル）	A1	A3	A	
		アカガエル	ツチガエル	A3	A3	A
		ダルマガエル（トウキョウダルマガエル）	A3	A3	A	
		トノサマガエル	A3	A3	A	
		ヤマアカガエル	h	h	h	
	アオガエル	モリアオガエル	E	E	h	
		シュレーゲルアオガエル	E	h	h	

○今回の改訂でブルーリストから削除した種

目名	科名	種名 (亜種名：*)	削除した理由
有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	<i>Hyobius</i> 属のサンショウウオは日本以外でも中国、朝鮮半島、台湾などにも生息しており、日本にも多様な種類がいるが、ほとんどの種類が環境省や各地のレッドリストに掲載され、保護の対象となっているため
		クロサンショウウオ	
		ハクバサンショウウオ	
		ヒダサンショウウオ	
		ハコネサンショウウオ	
無尾	アカガエル	ニホンアカガエル	青森県の間部より分布が拡がらない現状から、北海道での繁殖は難しいと考えられるため
		タゴガエル チョウセンヤマアカガエル	流通はなく繁殖場所・行動が特異なので、道内での繁殖の可能性はほぼないと考えられるため
	アオガエル	カジカガエル	

カテゴリー区分（対象生物の選定の考え方）

網がけしているカテゴリー区分に該当する種が、ブルーリストの選定種である。

なお、実験・動物園利用などの封じ込め下にある動物、農地・林地・園地や家庭菜園、花壇・宅地の庭などの人の管理下で栽培されている植物については、選定していない。

視点①	視点②	視点③	視点④	カテゴリー 区 分
本道に導入(※1)されているか	本道に定着できるか (越冬の可能性など)	本道に定着しているか	本道への影響(※2)は	
○：導入されている △：不明またははっきりしない ×：導入されていない可能性が高い	○：定着できる (またはそのおそれがある) ×：定着できない可能性が高い	○：定着している △：不明またははっきりしない ×：定着していない可能性が高い	○：影響等が報告されている あるいは懸念されている △：上記以外	
○	○	○	○	A
		△	△	B
		○	○	C
		△	△	D
	×	○	E	
	×	△	F	
△・×	○	○(※3)	○	H
		△	△	うち 注意種 h (※4)
		○	○	
		△	△	
	×	○	I	
	×	△	J	
(昆虫のみ) 導入されている 「室内昆虫」である(※5)				K

(※1)「導入」とは

野生生物本来の移動能力を超えて、人為によって意図的・非意図的に移動した(された)ことを指し、導入の時期については、原則として明治時代以降に本道に導入された生物種を外来種として捉える。

(※2)「影響」の例

- | | | |
|--------------|------------------|------------|
| ①上位捕食者としての影響 | ②植生などへの影響 | ③競合、駆逐の可能性 |
| ④交雑による遺伝的攪乱 | ⑤在来生物への病気、寄生虫の媒介 | |
| ⑥農林水産業などへの影響 | ⑦人の健康への影響 | |

(※3)

この欄は、在来種である可能性があることにより、視点①を「△」とした場合に適用する。

(※4)「注意種」とは

導入される可能性が高く、導入されると定着し影響が懸念される等、特に注意が必要と考えられるもの

(※5)

貯穀害虫などは、A～Eなどに区分しにくいいため、「室内害虫」としカテゴリー区分を「K」とする。

カテゴリー区分 A の細区分

「A1」：緊急に防除対策が必要な外来種

「A2」：本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種

「A3」：本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている外来種